

# 和歌山県有田川町視察報告書

2020年2月4日(火)

■日時：令和2年2月4日(火)15:00～16:00

■視察先：和歌山県有田川町地域交流センターALEC

■報告者：山本のりかず

■担当者：有田川町 教育部 班長 青石賢治氏

株式会社富士通マーケティング 和歌山支店長 霜野 良介氏

有田川町議会 議長 殿井 堯氏

■内容：「ウォークスルー型図書自動貸出システム」について

和歌山県有田川町において、ICT 活用により図書館利用者の利便性向上や業務の省力化が推進されています。民間活力により、IC タグや自動貸出の導入を図っています。

ウォークスルー型の図書自動貸出システムの特徴は、以下の3点に集約されます。

1、誰でも簡単に貸出手続きができ、さらに職員の業務省力化を実現

図書館を利用する人は、バックに利用者カードを入れておけば、そのまま本を持って読取ゲートを通すれば、貸出手続きが完了。その後に登録メールアドレスに借りた本のお知らせが届く。返却時は、自動返却ポストを活用することで、プライバシー保護にも資する。さらに、貸出と返却手続きをセルフ化することで、職員窓口を大幅に削減されます。

2、明るく開放的な図書施設コンセプトに合ったデザインを採用

地域住民の交流の場として、施設コンセプトとの一体感を重視し洋書風のデザインを採用。

3、高い認識率実現するため、オリジナル読取ゲートを構築

他の自治体で活用している自動貸出機は利用者自身で貸出操作が必要だが、操作や作業が不要となる読取ゲートを構築。

指定の通路を通過するだけで、限りなく読取を防ぐシステムを構築。

課題は、2020年1月7日から「ウォークスルー型図書自動貸出システム」運用開始しているが、一部システムエラーが生じているとのこと。具体的には、利用者による本の持ち方によってエラーが生じることや本そのもののデータが読み込めていない場合もあり、今後データの集約と原因把握をしていくとのこと。

■所見：

神戸市立図書館において、Rakuten OverDrive との連携協定により、2020年4月まで電子図書の貸出サービスを試行実施しています。

活用事例は違いますが和歌山県有田川町の事例を参考にして、ICT を積極的に推進している神戸市においても図書館再整備に際して活用できるところもあったので、会派として議会や委員会等で提案していく。



※和歌山県有田川町のウォークスルー型図書館



※ウォークスルー型図書館の貸出ゲート入り口